

★ 国立天文台 8 m 望遠鏡の名称について ★

8 m 望遠鏡の名称募集につき、ご協力いただきまして有難うございました。

おかげさまで 3349 通というたくさんの応募がありました。15 日付け消印をもって締め切り、19 日に選考委員会を開いて選考の結果、以下のように名称を決定いたしましたのでご報告いたします。

名称：すばる (SUBARU)

選考の理由：多数の応募の中から、簡明で日常使いやすいこと、ながく親しまれること、ひびきがよいこと、日本の望遠鏡としてのイメージが伝わること、他の科学装置の名前として知られたものは避けること、などを目安としながら候補となる名称を絞り込みました。その結果、古くから親しまれた星のやまと言葉であり、星への憧れを誘う響きの良い言葉として、すばる (SUBARU) を選定しました。すばるは、新しく生まれた星の集団であり、肉眼でもよく見える星団として昔から親しまれてきました。西欧ではプレアデスの名で知られ、やまと言葉としてのすばるは、「すまる」(集まるの意味)の転化とされています。なお応募名称中、すばるは 44 名から寄せられ、全体では 3 番目に多い名前でした。

なお選考委員は次の方々です。(敬称略)

楠田枝里子

清水洋一 (毎日新聞論説委員)

芝井 広 (宇宙科学研究所)

市川 隆 (東京大学理学部木曾観測所)

古在由秀, 海部宣男, 池内 了, 神田 泰, 林 左絵子

(以上 国立天文台)

書 評

パーティブック「いまこそ相対性理論」

江里口良治, 藤井保憲 著

丸善, 四六版, 143 ページ, 1030 円

ホーキングの来日でピークに達した宇宙論ブームも、ようやく下火になってきたようだ。このブームは、大部分の人にとっては「ちょっと知的な話のネタ」くらいにすぎないだろうが、いくらか興味を引かれた人もいるだろうし、ひょっとしたら啓蒙書の二、三冊も読んだ人もあるかも知れない。啓蒙書では物足りないが、ちゃんとした教科書を読むのはシンドイなどと言う贅沢な人がいたら、本書を手にとってみるのもいいだろう。

本書は、パーティ誌の連載をもとに加筆してできた本である。そのせいか、きわめて物理くさい本になっている。著者は、相対性理論そのものの説明にはあまり意を用いていない。むしろ、意図的に端折っているようでもある。ページを費やしているのは、相対性理論にいたるまでの(アインシュタインの取った)思考過程や、相対性理論の背景となっている考え方の説明についてであり、これらの点は、まさしく物理学者自身が相対性理論を理解する上で最も大切と考えている点に他ならない。また、相対性理論も物理理論である以上、実験による検

証が不可欠である。著者は、この点の説明にも力をそそいでいる。これらの特徴が、本書の物理くささかをもしだしているのだろう。

本書は、小部の冊子である。そのため、説明は必ずしも充分ではないかも知れない。また、縦書きの文章に合わせて数式も縦書きになっており、読みづらい。しかし、本書によって、他の啓蒙書では得られない、相対性理論に対する新たな理解を得ることができるであろう。

堂谷忠靖 (宇宙研)

お知らせ

理論天体物理学の現状と展望 研究会

1991 年度、京都大学基礎物理学研究所短期研究計画として、以下の研究会を開催いたします。これは、過去 3 年間国立天文台において開催されてきた理論天文学懇談会シンポジウムをうけて、理論天体物理学の現状を概観すると共に、今後の方向性を考えようとするものです。理論天体物理学の研究者のみならず、この方面に興味をもたれている方々の参加を歓迎いたします。ただし、会場の都合上、参加希望者は、氏名、所属、連絡先、旅費補助の希望有無(他から旅費の補助をもらえる可能性のある方はなるべくご遠慮下さい)、懇親会(19 日)参加の予定の有無、をあらかじめ世話人の須藤の方までお知